

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 23～25 年度)

実施機関：東京海洋大学（総括責任者：岡本 信明）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

支援機構は機構長他 3 名の機構員及び補佐員・補助員他からなり、以下の活動を行う。

- 1) 子育て中の女性研究者に対する研究補助員配置
- 2) 妊娠中・病気看護中等の研究者に対する支援
- 3) IT を利用した在宅業務など雇用環境の整備
- 4) 近隣子育て支援関連施設との協力による学内設備の維持・改善
- 5) 情報バンク・ホームページ等の維持・改善

(2) 研究を支援する者の配置計画

機構内に事務補佐員 1 名、コーディネーター 1 名を任期付きで雇用し、また被支援者の教育・研究活動を支援するための補助員及び保育施設のためのアドバイザー 2 名を、それぞれ時間雇用する。任期終了後は就職支援室を中心とした全学的キャリア支援を行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改 革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継 続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性教員採用に努力した結果、3 年間での女性教員の応募者数、採用比率が大幅に増えるとともに、在籍比率も増加した。さらに、女性研究者（博士研究員）の応募者数、採用者数も飛躍的に増加し、女性研究者の在籍割合も目標を超え、女性教員の科研費の申請率、採択率も上昇するなど、申請時の目標を達成した点は評価できる。今後、女性の進出が期待できる教育・研究分野を擁する大学であることを踏まえ、特に、自然科学系女性教員増を中心とした戦略的な女性教員の増加に取り組むことを期待する。

・ **目標達成度**：女性研究者の応募比率、採用比率、在籍比率の目標を達成した。これは、ライフイベント中の女性研究者への支援に対し潜在的なニーズを発掘し、意識改革、両立支援、裾野拡大に係る取組を実施し、環境整備を進めた結果であると評価できる。今後、女性博士研究員の増加だけでなく、自然科学系女性教員数の増加、上位職への登用を支援する取組の実施を期待する。

・ **取組**：女子学生、女性教員が少ない中、男女区別なく優秀な人材確保のために女性教員、女性

研究者を増やすことを重要課題と位置づけ、学長のリーダーシップの下、様々な取組を進めた結果が所期の目標達成に至ったことは評価できる。特に、アンケート結果を踏まえ、相談窓口の開設、研究補助支援員の配置、保育用具の充実、出産・育児支援のためのポケットガイドの作成・配布などの環境整備とともに、意識啓発に向けたシンポジウム開催などの積極的な取組は評価できる。

- **取組の成果（システム改革）**：女性研究者支援に対する種々の学内システム改革を行い、女性研究者応募者数、採用比率、在籍者数増など、所期の目標を達成する成果を挙げた。また、研究サポーター（RS）制度などの支援によりライフイベントを理由とした離職者ゼロの維持や、複数の准教授の教授への昇格、裾野拡大の取組の成果も見られたことは評価できる。今後は、任期無し教員の積極的な採用及び、上位職への昇任を支援する取組の実施を期待する。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、全学的な実施体制が整備されるとともに、男女共同参画推進室の下に女性研究者支援機構が設置されたことで、積極的かつ効率的に本事業を推進できたことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：研究サポーターRS制度は女性研究者だけでなく男性研究者をも対象とし、さらに、ワークライフバランス支援、意識啓発等の主な取組をすべて継続し、そのための予算を確保しているなど、本事業の発展的継続体制が構築され事業を継続していることは評価できる。女性研究者の採用における職種別・専門別に有用な事業計画の策定、海洋関連の他機関と連携したイベント開催による情報共有化の計画等が進められており、今後は、女性研究者の応募者増、採用増、上位職への昇格が進んでいくことを期待する。